

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	基礎科学		担当教員	高橋 憲一	
開講時期	2年次後期		総時限数	16時限	授業形態	講義	単位数 2単位

■ 科目内容

人体の運動機能を支える神経や筋、心臓や肺、消化器機能の生理学的機構を知ることは、効果的で安全な鍼灸治療を実施したり、新しい治療方法を開発する上で重要である。本科目では実験実習とそれによって得られたデータに関する解釈を通じ、科学的な思考の発達に必要なスキルを学習することを目的とする。

■ 到達目標

- ・測定機器の原理、測定方法、値の意味を説明することができる。
- ・実験により得られたデータから客観的・論理的に考察することができる。

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成した資料を基に行う。
- ・参考図書「生理学実習NAVI 第2版（医歯薬出版株式会社）」図書室にあるので読んでおくこと

■ 評価基準

- ・授業ごとに提出するレポートにより評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			生命科学における科学的思考の進め方
2			文献検索、統計、検定、プレゼンテーションの仕方
3			感覚の仕組み ①知覚検査の方法、②ウェーバーの法則
4			バランスの仕組み ①姿勢のとらえ方
5			バランスの仕組み ②運動分析の仕方
6			心臓の仕組み ①心電図の読み方
7			心臓の仕組み ②物理刺激と心拍数
8			呼吸の仕組み ①スパイロメータの使用
9			呼吸の仕組み ②酸素飽和度の測定
10			血糖調節の仕組み ①食後の血糖値の変化
11			血糖調節の仕組み ①食後の血糖値の変化
12			体温調節の仕組み
13			体温調節の仕組み
14			運動の仕組み 誘発筋電図演習
15			運動の仕組み 誘発筋電図演習
16			まとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	人体機能学		担当教員	川浪 勝弘		
開講時期	2年次通年		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数	4単位

■ 科目内容

運動器疾患についての基礎知識を習得する。疾患ごとの病態生理、障害のメカニズムについて解剖学的に考察する。各疾患に関与する筋肉を触診する。

■ 到達目標

- ・疾患ごとの病態生理を理解、説明できる。
- ・筋肉の触診を行うことができる。

■ 授業方法・教材

教科書：教員が作成する資料

■ 学習方法

座学と触診実技を並行して行う。

■ 成績評価

座学試験50% 触診試験50% 出席点を加味する。

担当職員 川浪 勝弘

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 札幌センチュリー病院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			胸郭出口症候群 I
2			胸郭出口症候群 II
3			胸郭出口症候群 まとめ
4			肩関節周囲炎 I
5			肩関節周囲炎 II
6			肩関節周囲炎 III
7			肩関節周囲炎 IV
8			肩関節周囲炎 まとめ
9			肘関節疾患 I
10			肘関節疾患 II
11			肘関節疾患 まとめ
12			手関節疾患 I
13			手関節疾患 II
14			手関節疾患 まとめ
15			下肢・股関節疾患 I
16			下肢・股関節疾患 II
17			下肢股関節疾患 まとめ
18			触診のテスト
19			膝関節疾患 I
20			膝関節疾患 II
21			膝関節疾患 III
22			膝関節疾患 まとめ
23			足関節疾患 I
24			足関節疾患 II
25			足関節疾患 まとめ
26			姿勢 I
27			姿勢 II
28			頸部・腰部疾患 I
29			頸部・腰部疾患 II
30			頸部・腰部疾患 III
31			頸部・腰部疾患 まとめ

専門基礎分野

部	昼間部	科目名	病理学概論		担当教員	細川眞澄男	
開講時期	2年次通年		総時限数	24時限	授業形態	講義	単位数 3単位

■ 科目内容

病気の本態を理解するために、体全体に共通してみられる基本的病変を、その原因とともに学習し、それにより起こる身体の変化について学ぶ。

■ 到達目標

1. 病理学とはなにかを説明できる。
2. 病変の単位である細胞・組織の成り立ちを説明できる。
3. 循環障害、代謝異常、炎症と免疫異常などによる病変を説明できる。
4. 「がん」について概説できる。
5. 疾病と年齢との関連について説明できる。
6. 各臓器の疾病の特徴を説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・教科書：「病理学概論」（東洋療法学校協会編、医歯薬出版）を読み合わせし、中村仁志夫ほか著「医療系学生のための病理学」および渡辺 照男編「カラーで学べる病理学」を参考に講師が用意した配布資料を使用する。

■ 学習方法

授業に出席し、授業の中で学習会得する。

■ 成績評価

期末試験の成績に授業への出席、発言なども加味して総合的に評価する。

■ 連絡事項

病理学は解剖学、生理学など学習で習得した正常な人の構造や働きの知識を基にしているので、解剖学や生理学の知識を復習しておくこと、また、授業で話せることは限界があるので、教科書や参考書を使って予習と復習をしておくことを勧める。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1			病理学序論 病理学の歴史など
2			病因論 遺伝、免疫などの内因、感染症など外因
3			物質代謝障害 糖尿病、低蛋白血症、高脂血症など
4			循環障害 充血とうっ血、出血、血栓、塞栓、梗塞など
5			退行性病変 細胞・組織の障害
6			進行性病変 修復と再生の異常
7			炎症
8			免疫異常とアレルギー
9			腫瘍 「がん」など
10			先天性疾患と遺伝病
11			各論 循環器系の病変 先天性心疾患 狭心症、心筋梗塞など
12			呼吸器系の病変 肺炎 肺がんなど
13			消化器系の病変 胃の疾患、腸、肝、胆管、膵臓の病変
14			造血器系の病変 貧血、白血病など
15			泌尿器系の病変 腎臓、膀胱などの病変
16			生殖器（男性と女性）の病変
17			内分泌器系の病変（1） 下垂体、甲状腺などの病変
18			内分泌器系の病変（2） 副腎、膵臓などの病変
19			脳・神経系の病変（1） 中枢神経の病変
20			脳・神経系の病変（2） 末梢神経の病変
21			運動器系の病変 骨と骨格筋の病変
22			軟部組織の病変 結合組織の病変
23			皮膚の病変 湿疹、乾癬など
24			目、耳、鼻の病変 結膜炎、中耳炎、副鼻腔炎など

専門基礎分野

部	夜間部	科目名	病理学概論		担当教員	堀 二葉 田中伸哉		
開講時期	2年次通年		総時限数	26時限	授業形態	講義	単位数	3単位

■ 科目内容

病気の本態を理解するために、体全体に共通してみられる基本的病変を、その原因とともに学習し、そのより起こる身体の変化について学ぶ。

■ 到達目標

1. 疾患は内因と外因とで生じ、いくつかの群に分類されることを理解する。
2. 細胞・組織の病変を示す用語の内容について代表的なものを把握する。
3. 疾患の発生と経過ならびに予後について、定型的なものを理解する。
4. 循環障害、代謝異常、炎症と免疫異常、腫瘍などによる病変を説明できる。
5. 医学・医療における病理学の役割について理解する。

■ 授業方法・教材

- ・教科書：「病理学概論」（東洋療法学校協会編、医歯薬出版）
- ・教員作成の講義資料を毎回配布する。

■ 学習方法

配布した講義資料を中心に授業を進める。

■ 成績評価

中間・期末試験の成績に授業への出席なども加味して総合的に評価する。

■ 連絡事項

病理学は解剖学、生理学など学習で習得した正常な人の構造や働きの知識を基にしているので、解剖学や生理学の知識を復習しておくこと、また、授業で話せることは限界があるので、教科書や参考書を使って予習と復習をしておくことを勧める。

特別講義の日程については後日連絡する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			第1章 病理学の目的と役割 第2章 疾病についての基本的考え方
2			第3章 病因 (内因)
3			第3章 病因 (外因)
4			第4章 循環障害 (充血・うっ血、貧血・虚血)
5			第4章 循環障害 (出血、血栓症、塞栓症)
6			第4章 循環障害 (梗塞、水腫・浮腫)
7			第4章 循環障害 (脱水症、ショック)
8			第5章 退行性病変 (萎縮)
9			第5章 退行性病変 (変性)
10			第5章 退行性病変 (壊死と死)
11			第6章 進行性病変 (肥大と増殖、再生)
12			第6章 進行性病変 (化生、移植、創傷治療、組織内異物の処理)
13			第7章 炎症 (炎症の一般)
14			第7章 炎症 (炎症の分類)
15			第7章 炎症 (炎症の分類)
16			第8章 腫瘍 (腫瘍の一般)
17			第8章 腫瘍 (良性腫瘍)
18			第8章 腫瘍 (悪性腫瘍)
19			第9章 免疫異常・アレルギー (液性免疫と細胞性免疫)
20			第9章 免疫異常・アレルギー (アレルギー)
21			第9章 免疫異常・アレルギー (免疫不全、自己免疫異常)
22			第10章 先天性異常 (代謝異常、奇形)
23			第10章 先天性異常 (遺伝性疾患、染色体異常)
24			総まとめ
25			特別講義
26			〃

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学総論		担当教員	堀 二葉	
開講時期	2年次通年		総時限数	46時限	授業形態	講義	単位数 6単位

■ 科目内容

はり・きゅうなどの東洋療法を実践するためには、西洋医学を基盤とする臨床医学についての全般的知識も必要である。臨床医学総論では、患者さんに対する医療面接技法や全身的及び局所的ならびに系統的な診察法を習得すると共に、臨床検査法や基本的な症候についても十分に理解し、疾患の診断や治療法を学ぶ上での基礎的な知識を学習する。

■ 到達目標

- ・医療面接における注意点や医療面接において確認すべき事項を説明できる。
- ・診察法の種類、身体診察で確認する内容について説明できる。
- ・生命徴候（バイタルサイン）を正しく評価し、その意義を説明できる。
- ・神経系の診察法と神経症状の意味を説明できる。
- ・運動機能の診察法と運動機能障害の意義を説明できる。
- ・臨床検査法の内容を理解し、検査値の意味を説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・教科書：「臨床医学総論」（東洋療法学校協会編、医歯薬出版）
- ・教員作成の講義資料を毎回配付する。

■ 学習方法

配付した講義資料を中心に授業を進める。

■ 成績評価

中間・期末試験の成績に、授業への出席なども加味して総合的に評価する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			第1章 診察の概要
2			第2章 診察の方法 (医療面接)
3			第2章 診察の方法 (視診、触診)
4			第2章 診察の方法 (打診、聴診)
5			第3章 生命徴候の診察 (体温、脈拍)
6			第3章 生命徴候の診察 (血圧)
7			第3章 生命徴候の診察 (呼吸)
8			第4章 全身の診察 (顔貌・顔色、歩行、姿勢と体位)
9			第4章 全身の診察 (身体計測、体型・体格、栄養状態)
10			第4章 全身の診察 (皮膚・粘膜・皮下組織)
11			第4章 全身の診察 (リンパ節、精神状態、言語)
12			第5章 局所の診察 (頭部、顔面、眼)
13			第5章 局所の診察 (鼻、耳、口腔、頸部)
14			第5章 局所の診察 (胸部、乳房、肺・胸膜)
15			第5章 局所の診察 (心臓)
16			第5章 局所の診察 (腹部)
17			第5章 局所の診察 (背部)
18			第5章 局所の診察 (四肢)
19			第6章 神経系の診察 (感覚検査法)
20			第6章 神経系の診察 (反射検査)
21			第6章 神経系の診察 (反射検査)
22			第6章 神経系の診察 (脳神経系の検査)
23			第6章 神経系の診察 (脳神経系の検査)
24			第6章 神経系の診察 (脳神経系の検査)
25			第6章 神経系の診察 (脳神経系の検査)
26			第6章 神経系の診察 (脳神経系の検査)
27			第6章 神経系の診察 (脳神経系の検査)
28			第6章 神経系の診察 (髄膜刺激症状、高次脳機能検査)
29			第7章 運動機能検査 (運動麻痺)

30		第7章 運動機能検査（筋肉の異常）
31		第7章 運動機能検査（不随意運動）
32		第7章 運動機能検査（協調運動、起立と歩行）
33		第8章 その他の診察
34		第9章 臨床検査法（一般検査）
35		第9章 臨床検査法（一般検査）
36		第9章 臨床検査法（一般検査）
37		第9章 臨床検査法（一般検査）
38		第9章 臨床検査法（一般検査）
39		第9章 臨床検査法（一般検査）
40		第9章 臨床検査法（血液生化学検査）
41		第9章 臨床検査法（血液生化学検査）
42		第9章 臨床検査法（血液生化学検査）
43		第9章 臨床検査法（生理学的検査および画像診断の概要）
44		第9章 臨床検査法（生理学的検査および画像診断の概要）
45		総まとめ
46		総まとめ

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床医学各論		担当教員	塩崎 郁哉	
開講時期	2年次通年		総時限数	60時限	授業形態	講義	単位数 8単位

■ 科目内容

今日において様々な疾患があり、鍼灸治療に訪れる方々の病態や疾患も多岐にわたる。鍼灸治療の適応疾患は数多くある一方で、全てが適応というわけではなく、各種医療機関と連携をとりながら治療を進めていく必要がある。また、鍼灸師もチーム医療の担い手としてのニーズも高まってきており、他の医療従事者との共通認識、共通言語を持つことが求められる。

本講では現代医学の観点から各領域の代表的な疾患の概要を学ぶ。他の専門基礎分野科目の知識と関連づけながら、国家試験の対策のみならず、臨床に活かせる疾患の見方、考え方を身につけていく。

■ 到達目標

- ・各領域の代表的な疾患について、その概念、疫学、病態、症状、所見、治療、経過や予後を説明できるようにする
- ・現代医学の考え方を学び、鍼灸臨床のみならず、鍼灸師という医療人として他の医療関係者と対等に活躍できる力を身につける

■ 授業方法・教材

- ・「病気がみえる」各巻（医療情報科学研究所編、メディックメディア）： 教室に常備してあります。
- ・教員が作成した資料、プリント

■ 学習方法

- ・教科書と教員が配布した資料をもとにして授業を進めていく
- ・解剖学や生理学の知識が本科目を理解するうえで必要になるため、予習・復習では解剖学や生理学の教科書と共に勉強することで、相互の理解がより深まる
- ・日常生活にアンテナを張り、ニュース等で出てくる病気や疾患について興味を持ち、その都度調べてみることで理解が深まる

■ 成績評価

- ・中間試験（50%）、期末試験（50%）

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1			消化器疾患：食道癌
2			消化器疾患：食道炎、食道潰瘍
3			消化器疾患：食道憩室、マロリーワイス症候群、食道静脈瘤
4			消化器疾患：胃炎、胃十二指腸潰瘍
5			消化器疾患：胃癌
6			消化器疾患：胃ポリープ、胃下垂、胃神経症、十二指腸憩室
7			消化器疾患：潰瘍性大腸炎、クローン病
8			消化器疾患：過敏性腸症候群、急性腸炎、虫垂炎
9			消化器疾患：大腸癌、イレウス
10			消化器疾患：大腸ポリープ、大腸憩室、痔、腹膜炎
11			肝・胆・膵疾患：急性肝炎
12			肝・胆・膵疾患：慢性肝炎
13			肝・胆・膵疾患：肝硬変、アルコール性肝障害、薬物性肝障害
14			肝・胆・膵疾患：肝癌
15			肝・胆・膵疾患：脂肪肝、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変
16			肝・胆・膵疾患：胆石、胆嚢炎
17			肝・胆・膵疾患：胆嚢癌、総胆管癌、胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋腫症
18			肝・胆・膵疾患：急性膵炎、慢性膵炎、膵癌
19			血液造血器疾患：鉄欠乏性貧血
20			血液造血器疾患：巨赤芽球性貧血
21			血液造血器疾患：溶血性貧血
22			血液造血器疾患：再生不良性貧血
23			血液造血器疾患：急性白血病
24			血液造血器疾患：慢性白血病
25			血液造血器疾患：悪性リンパ腫
26			血液造血器疾患：紫斑病、血友病
27			リウマチ性疾患・膠原病：関節リウマチ
28			リウマチ性疾患・膠原病：全身性エリテマトーデス、全身性硬化症
29			リウマチ性疾患・ペーチェット病、多発性筋炎・皮膚筋炎

30		リウマチ性疾患・膠原病：多発動脈炎、食物アレルギー、血清病
31		代謝・栄養疾患：糖尿病
32		代謝・栄養疾患：脂質異常症、メタボリックシンドローム、るいそう
33		代謝・栄養疾患：痛風
34		代謝・栄養疾患：ビタミン欠乏症
35		循環器疾患：心不全
36		循環器疾患：僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、僧帽弁逸脱症候群
37		循環器疾患：大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症
38		循環器疾患：不整脈、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症
39		循環器疾患：狭心症
40		循環器疾患：心筋梗塞
41		循環器疾患：動脈硬化症
42		循環器疾患：末梢動脈疾患
43		循環器疾患：大動脈瘤、大動脈解離
44		循環器疾患：高血圧症、低血圧症
45		腎・尿器疾患：糸球体腎炎、ネフローゼ症候群
46		腎・尿器疾患：腎不全
47		腎・尿器疾患：腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、腎・尿管結石
48		腎・尿器疾患：腎癌、膀胱癌、前立腺癌、前立腺肥大
49		整形外科疾患：関節炎、肩関節周囲炎、変形性関節症
50		整形外科疾患：骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、骨腫瘍
51		整形外科疾患：筋・腱炎、重症筋無力症
52		整形外科疾患：先天性股関節脱臼、斜頸、側彎症、外反母趾、内反足
53		整形外科疾患：脊椎疾患、脊髄損傷
54		整形外科疾患：骨折、脱臼、胸郭出口症候群、頸腕症候群
55		内分泌疾患：クッシング病、先端巨大症、巨人症
56		内分泌疾患：成長ホルモン分泌不全性低身長症、尿崩症
57		内分泌疾患：甲状腺機能亢進症
58		内分泌疾患：甲状腺機能低下症
59		内分泌疾患：クッシング症候群、原発性アルドステロン症
60		内分泌疾患：副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう理論		担当教員	二本松 明	
開講時期	2年次後期		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数 4単位

■ 科目内容

患者さんに鍼や灸をするときに、①どこへ（圧痛点、硬結部位など）、②どのように（道具、刺激方法）を選択する必要がある。その際、それぞれの方法にどのような特徴があるかを知ることが効果的な治療を行うためにも重要である。また、鍼灸刺激が生体にどんな影響を及ぼすのか？、それはどのような仕組みによるものなのかを知っていなくてはならない。鍼灸理論は以上の内容を学習する教科である。

■ 到達目標

1. 治療法の決定に必要な治療法の特徴とそのメカニズムについて説明できる。
2. 鍼灸治療の際に用いる経絡・経穴の現代医学的解釈について説明できる。
3. 鍼灸治療効果に関わる基礎知識（神経・感覚生理学）について説明できる。
4. 鍼灸刺激による生体への影響（内臓機能の調節、鎮痛効果等）のメカニズムについて説明できる。

■ 授業方法・教材

- ・「はり・きゅう理論」：（社）東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・サブテキスト「生理学」：（社）東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社
- ・教員が作成したプリント

■ 学習方法

- ・解剖学、生理学、はりきゅう実技の知識が必須となるため、復習しておくこと

■ 成績評価

- ・中間試験（50%）、期末試験（50%）で評価する。

担当職員 二本松 明

資格 はり師・きゅう師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 新潟看護医療専門学校 東洋医療センター鍼灸治療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項目
1			感覚（触圧覚）の受容と伝導
2			感覚（温度感覚）の受容と伝導
3			感覚（深部感覚）の受容と伝導
4			感覚（痛覚）の受容と伝導
5			神経の伝導の仕組みと鍼刺激の効果の関係
6			ヒトにおける鍼灸刺激と自律神経反射のレビュー
7			神経生理学、感覚生理学復習
8			神経の伝導の仕組みと鍼刺激の効果の関係
9			脊髄レベルでの鎮痛機構（ゲート・コントロール理論）
10			鍼灸刺激による自律神経機能の調節（動物への薬理的手法による検討）
11			鍼灸刺激による循環改善のメカニズム
12			鍼刺激による鎮痛メカニズム その① 局所、脊髄、中枢神経
13			鍼刺激による鎮痛メカニズム その② 鍼麻酔のメカニズム
14			鍼刺激による鎮痛メカニズムのまとめ
15			中枢神経機構と鍼刺激
16			生理学内分泌系
17			生理学内分泌系
18			生理学内分泌系
19			刺激と反応、鍼灸の一般的治効理論、神経系－内分泌系－免疫系のつながりと鍼灸
20			生理学運動機能（筋機能）
21			生理学運動機能（筋機能）
22			生理学運動機能（運動神経反射）
23			生理学運動機能（運動神経反射）
24			運動神経系に対する鍼刺激の効果
25			神経疾患に対する鍼灸刺激の作用メカニズム
26			関連学説 その① フィードバック、ホメオスタシス
27			関連学説 その② ストレス学説
28			関連学説 その③ レイリー現象
29			関連学説 その④ 圧発汗反射
30			まとめ

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	東洋医学臨床論		担当教員	川浪 勝弘 佐野 敬夫		
開講時期	2年次通年		総時限数	54時限	授業形態	講義	単位数	7単位

■ 科目内容

東洋医学臨床論では、現代医学的な診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な治療が行えるよう、その方法を学習する。特に遭遇しやすい症候、疾病に対して東洋医学的視点と現代医学的視点を総合し鍼灸治療の実際を学習すること目標とする。

■ 到達目標

- ・各症候の適不適の鑑別を行うことができるか。
- ・各疾患の病態生理学を説明することができるか。

■ 授業方法・教材

- ・教員が作成するプリント

■ 学習方法

教員が作成したプリントを基に授業を行う。

■ 成績評価

- ・中間試験（40%）、期末試験（60%）で評価する。

担当職員 川浪 勝弘

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 札幌センチュリー病院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			東洋医学基礎 I
2			東洋医学基礎 II
3			診断学 I
4			診断学 II
5			頭痛
6			頭痛
7			顔面痛
8			顔面痛
9			顔面麻痺
10			顔面麻痺
11			眼性疲労
12			眼性疲労
13			鼻閉、鼻汁
14			鼻閉、鼻汁
15			めまい
16			めまい
17			耳鳴り
18			耳鳴り
19			咳漱
20			咳漱
21			腹痛
22			腹痛
23			便秘と下痢
24			便秘と下痢
25			胸痛
26			復習
27			復習
28			月経異常
29			月経異常

30			生活習慣病
31			生活習慣病
32			皮膚疾患
33			皮膚疾患
34			運動器疾患
35			運動器疾患
36			運動器疾患
37			運動器疾患
38			運動器疾患
39			運動器疾患
40			運動器疾患
41			運動器疾患
42			運動器疾患
43			運動器疾患
44			運動器疾患
45			運動器疾患
46			運動器疾患
47			運動器疾患
48			運動器疾患
49			運動器疾患
50			運動器疾患
51			運動器疾患
52			運動器疾患
53			運動器疾患
54			運動器疾患

専門分野

部	昼間部 夜間部	科目名	経絡経穴概論		担当教員	工藤 匡	
開講時期	2年次通年		総時限数	30時限	授業形態	講義	単位数 4単位

■ 科目内容

1年次で学んだ経絡経穴の知識を基に、人体での取穴を中心とした臨床的な知識・技術を学習する。

■ 到達目標

1. 教科書に記載された経穴の部位を基に、人体での取穴を手際よく正確に行うことができる。
2. 経脈流注の関連を理解し、整合性のある取穴を行うことができる。
3. 経穴部の解剖学的な知識を理解し、体表部より触察することができる。

■ 授業方法・教材

教科書：「新版 経絡経穴概論 第2版」（公社）東洋療法学校協会、日本理療科教員連盟編、株式会社医道の日本社

1. 教科書やプリントを用い、座学と取穴の実技を並行して行う。
2. 知識の定着を促すため、定期的に小テストを行う。

■ 学習方法

実際の鍼灸臨床を意識して、患者の個人差を想定した取穴を学ぶ。そのため、自発的になるべく多くの人の身体で取穴を行い、経験を積むこと。

授業前には1年次に学んだ経絡経穴概論や解剖学の内容を復習しておくこと。

鍼灸実技の練習もすべて本授業と関連する意識を持ち、普段から経絡経穴の用語を口に出し、学生間の会話の一部にしてほしい。

■ 成績評価

期末試験により評価する。

担当職員 工藤 匡

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 早稲田はりきゅう治療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			上肢の経穴の概要（流注、取穴部位、体表解剖）と取穴実技
2			
3			
4			
5			
6			
7			小テスト（上肢の経穴の取穴）
8			
9			下肢の経穴の概要（流注、取穴部位、体表解剖）と取穴実技
10			
11			
12			
13			
14			
15			小テスト（下肢の経穴の取穴）
16			
17			体幹の経穴の概要（流注、取穴部位、体表解剖）と取穴実技
18			
19			
20			
21			
22			
23			小テスト（体幹の経穴の取穴）
24			
25			頭頸部の経穴の概要（流注、取穴部位、体表解剖）と取穴実技
26			
27			
28			
29			小テスト（頭頸部の経穴の取穴）
30			

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	生体観察		担当教員	阿部 吉則		
			総時限数	30時限		実技	単位数	4単位
開講時期	2年次前年				授業形態			

■ 科目内容

2年次科目である「臨床医学総論」の教科内容をもとに、基本的身体診察の実技を学習する。特に、理学的検査や神経学的検査の方法や意義を理解し、実際にモデルを利用して診察所見を得る過程を体験する。

■ 到達目標

1. 全身及び局所の診察方法の意義と方法を理解し、実際に行うことができる。
(血圧測定、脈拍測定、四肢長、周径、関節可動域検査)
2. 神経系 {知覚、筋力、反射 (表在反射、深部反射、自律神経反射、病的反射など) } の診察方法の意義と方法を理解し、実際に行うことができる。
3. 理学的検査の方法と意義を理解し、実際に行うことができる。
4. 特徴的な症状と疾患との結びつけができるようになる。

■ 授業方法・教材

- ・教科書 : 「臨床医学総論」(東洋療法学校協会編、医歯薬出版)
- ・その他 : 必要に応じて講義内容に関する資料を配付する。
ビデオ教材、模型を適宜使用する。

※本科目は実技科目であるが、教室を使用した座学を中心とする授業も行う。

■ 学習方法

本科目は2年次に学習する「臨床医学総論」、「臨床医学各論」、「東洋医学臨床論」、「人体機能学」の内容を踏まえ、その実技を行う科目です。常に各科目との関連を振り返るよう学習を進めてください。

■ 成績評価

- ・実技試験 (50%)、学科試験 (50%)。

担当職員 阿部 吉則

資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師

所属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経歴 ユリ治療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション、バイタルサイン
2			頭頸部の診察
3、4			脳神経の診察① II～VI脳神経 (視野、眼球運動、対光反射、輻輳調節反射)
5、6			脳神経の診察② VII、VIII脳神経 (表情筋、簡易聴力検査、オーディオグラムの見方、平衡機能検査)
7、8			脳神経の診察③ IX～XII脳神経 (嚥下機能、舌の運動、構音障害)
9			上肢の運動系の診察
10			起立・歩行
11			下肢の運動系の診察
12			感覚検査
13			反射検査
14			神経診察まとめ
15			徒手筋力検査
16			理学的検査① 頸部、胸郭出口の理学的検査
17			理学的検査② 肩部、肘部、手部の理学的検査
18			理学的検査③ 腰部（股関節、仙腸関節含む）の理学的検査
19			理学的検査④ 膝部の理学的検査
20-30			骨性指標と筋・経穴の触診

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	臨床実習		担当教員	工藤 匡		
			総時限数	46 時限		授業形態	実技	単位数
開講時期	2 年次通年							

■ 科目内容

実際の鍼灸臨床の現場を通じて、これまで学んできた座学および実技の知識・技術を確認し、2年次と3年次にわたって鍼灸師として必要とされる臨床能力を総合的に育成する。

2年次は、臨床実習前教育として主にコミュニケーション技法や医療面接、身体診察の基礎を学ぶほか、学外の医療機関や鍼灸治療院における見学実習に参加する。

3年次は、学校の附属臨床実習センターにおける外来診療に参加し、実習担当者の治療見学や業務補助に携わる。最終的には、自分で時間内に鍼灸施術ができることを目的とする。

■ 到達目標

1. 医療従事者として適切な服装や身だしなみ、挨拶ができる。
2. 患者に不快感を与えない言葉づかい、行動ができる。
3. 医療面接を行うことができる。
4. 診療録（カルテ）を書くことができる。
5. 基本的な身体診察法を行うことができる。

■ 授業方法・教材

特定の教科書はないため、講義ごとに配布プリントやPCスライド、動画などを利用して学習する。

■ 学習方法

本科目は2年次に学習する「臨床医学総論」、「臨床医学各論」、「東洋医学臨床論」、「人体機能学」の内容を踏まえ、その実技を行う科目です。常に各科目との関連を振り返るよう学習を進めてください。

■ 評価基準

3年次からの臨床実習に参加できる水準に達しているか、臨床実習前教育の評価試験を行う。その他、出欠席やレポート提出の状況などを踏まえて総合的に評価する。

担当職員 工藤 匡

資 格 はり師・きゅう師

所 属 北海道鍼灸専門学校 附属臨床実習センター

経 歴 早稲田はりきゅう治療院

■ 連絡事項

学内だけでなく、学外の医療機関や鍼灸治療院の見学実習もあるため、無断での遅刻・欠席を禁止する。一般の外来患者と接する機会があることから、実習施設や患者の情報を外部に漏洩することがないように守秘義務の遵守を徹底すること。

医療機関実習および鍼灸治療院実習の具体的な日程については、後日、別途説明する。

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			オリエンテーション（臨床実習の概要説明）
2			服装・身だしなみ
3			挨拶・コミュニケーション技法
4			医療面接の概要①（DVD）
5			医療面接の概要②（主訴・現病歴・既往歴）
6			医療面接の概要③（家族歴・社会歴など）
7			医療面接の概要④（診療録の記載）
8			医療面接の概要⑤（診療録の記載）
9			医療面接の概要⑥（医療面接の実践）
10			医療面接の概要⑦（医療面接の実践）
11			身体診察の基礎①（バイタルサイン）
12			身体診察の基礎②（バイタルサイン）
13			身体診察の基礎③（感覚検査）
14			身体診察の基礎④（感覚検査）
15			身体診察の基礎⑤（反射検査）
16			身体診察の基礎⑥（反射検査）
17			身体診察の基礎⑦（運動検査）
18			身体診察の基礎⑧（運動検査）
19			身体診察の基礎⑨（理学検査法）
20			身体診察の基礎⑩（理学検査法）
21			身体診察の基礎⑪（理学検査法）
22			東洋医学的診察の基礎①
23			東洋医学的診察の基礎②
24			はり実技・きゅう実技①

25		はり実技・きゅう実技②
26		はり実技・きゅう実技③
27		総合練習
28		総合練習
29		臨床実習前教育の評価試験
30		臨床実習前教育の評価試験
31		医療機関実習①
32		医療機関実習①
33		医療機関実習②
34		医療機関実習②
35		医療機関実習③
36		医療機関実習③
37		鍼灸治療院実習①
38		鍼灸治療院実習①
39		鍼灸治療院実習②
40		鍼灸治療院実習②
41		鍼灸治療院実習③
42		鍼灸治療院実習③
43		鍼灸治療院実習④
44		鍼灸治療院実習④
45		鍼灸治療院実習⑤
46		鍼灸治療院実習⑤

専門基礎分野

部	昼間部 夜間部	科目名	はり・きゅう実技		担当教員	大湊隆次郎 阿部 吉則		
開講時期	2年次通年		総時限数	76時限	授業形態	実技	単位数	5単位

■ 科目内容

鍼の刺入技術の基本と、身体各部における治療点としての経穴の正しい取穴、刺入方向および刺鍼法を修得する。また、施灸用具とその取扱い、種々の灸療法、治療点への適正な施灸法を修得する。さらに、特殊部位の刺鍼と特殊鍼について、理解し修得する。

■ 到達目標

- ・身体各部の治療点を正しく取穴できる。
- ・治療部位により、鍼の刺入方向や刺入深度を適切に選択し、正しく刺入できる。
- ・施灸用具を適切に扱い、各治療点に正しく施灸できる。

■ 授業方法・教材

- ・「東洋医学臨床論」東洋医療学校協会編
- ・「はりきゅう実技<基礎編>」東洋医療学校協会編

■ 学習方法

- ・知識および技術の習得度の低い学生に対し、個別指導に重点を置くなど学習の便を図る。

■ 成績評価

- ・実技試験60点以上。
- ・実技試験、出席率、実習態度を総合評価する。

担当職員 大湊 隆次郎

資格 はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師

所属 大湊厚生療院

■ 授業計画

回	月/日	出欠	項 目
1			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
2			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
3			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
4			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
5			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
6			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
7			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
8			刺鍼の練習（管鍼法）自身の手足への刺鍼、施灸練習
9			刺鍼の練習（撚鍼法 斜刺 横刺）
10			刺鍼の練習（撚鍼法 斜刺 横刺）
11			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
12			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
13			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
14			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
15			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
16			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
17			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
18			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
19			身体各部の刺鍼及び施灸（上肢）
20			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
21			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
22			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
23			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
24			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
25			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
26			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
27			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
28			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）
29			身体各部の刺鍼及び施灸（胸部・腹部）

30		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
31		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
32		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
33		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
34		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
35		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
36		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
37		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
38		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
39		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
40		身体各部の刺鍼及び施灸（後頸部・背部・腰部・臀部）
41		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
42		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
43		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
44		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
45		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
46		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
47		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
48		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
49		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
50		身体各部の刺鍼及び施灸（下肢）
51		身体各部の刺鍼及び施灸（頭部・顔面部）
52		身体各部の刺鍼及び施灸（頭部・顔面部）
53		身体各部の刺鍼及び施灸（頭部・顔面部）
54		身体各部の刺鍼及び施灸（頭部・顔面部）
55		身体各部の刺鍼及び施灸（頭部・顔面部）
56		身体各部の刺鍼及び施灸（頭部・顔面部）
57		知熱灸、隔物灸の実際（実技・ビデオ）
58		知熱灸、隔物灸の実際（実技・ビデオ）
59		知熱灸、隔物灸の実際（実技・ビデオ）
60		知熱灸、隔物灸の実際（実技・ビデオ）

61		知熱灸、隔物灸の実際（実技・ビデオ）
62		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
63		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
64		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
65		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
66		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
67		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
68		解剖的特殊部位の刺鍼（星状神経節刺鍼・頸動脈洞刺鍼・坐骨神経刺鍼）
69		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
70		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
71		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
72		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
73		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
74		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
75		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）
76		特殊鍼法（小児鍼・皮内鍼・灸頭鍼・中国鍼・長鍼・短鍼）